



JAPAN FOUNDATION FOR
UNITED NATIONS UNIVERSITY



UNU

国連大学と

国連大学協力会

2026



公益財団法人国連大学協力会

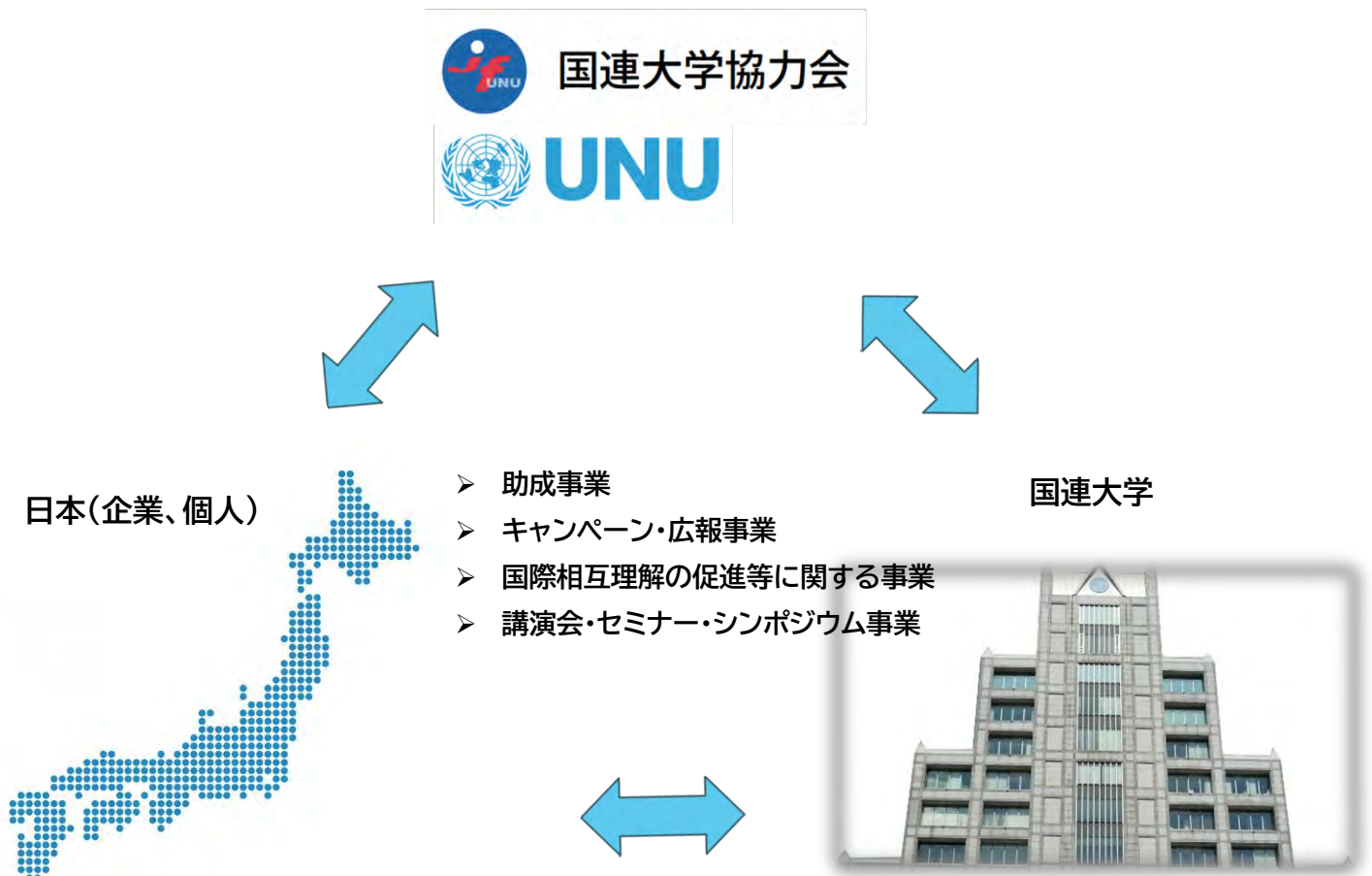
国連大学協力会の概要

Ⅱ 設立の経緯と活動の目的

国連大学は国連のシンクタンクとして、世界の学者・研究者の知識を結集し、地球規模課題の解決を目指すという重要な役割を担っています。それにもかかわらず、国連大学は他の多くの国連機関とは異なり、国連の通常予算の配分を受けていません。その運営は、各国政府の自発的な拠出金と世界各国の民間の方々からの寄付金に支えられています。

公益財団法人国連大学協力会（国連大学協力会）は、このような国連大学の活動を支援しようと、故永井道雄（元文部大臣）、故大来佐武郎（元外務大臣）、故小林宏治（元日本電気会長）の呼びかけにより、我が国の学界、産業界等幅広い協力のもとに、1985年6月3日、当時の外務省と文部省の共管法人として設立されました。以来、多くの個人や企業・団体の皆様のご理解とご支援を得ながら、日本において国連大学を支援する活動を展開しています。

国連大学協力会は、東京・渋谷の国連大学本部施設の中に事務所を置き、国連大学との密接な連携のもと、日本の皆様に対し、国連大学の教育・研究活動への理解と関心を高めていただくための広報事業や国連大学大学院で学ぶ学生への奨学金の支援など様々な活動を展開しています。こういった事業を通じ、日本の人々と国連大学両者の架け橋となる活動を目指しています。



国連大学の概要

Ⅱ 国連大学とは

2025年に創立50周年を迎えた国連大学（UNU）はグローバルなシンクタンクであり大学院の教育機関で、本部を日本に置いています。国連機関の本部があるのは、アジアの中では日本が唯一の国です。国連大学の使命は、人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究や教育を通じて寄与することです。

この使命を果たすため、国連大学は国連加盟国の世界を先導する大学や研究機関と連携をとることで、国際的な学術機関ならびに国連システム組織との架け橋という役割を担っています。

Web サイト	年次報告書			
		2025 年英語版		2024 年日本語版
				

参考：外務省Webサイト：https://www.mofa.go.jp/mofaj/pr_pd/mcc/page22_002277.html

Ⅱ 国連大学サステナビリティ高等研究所とは

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は、人類と地球の持続可能な未来を実現するために設立された研究・教育機関です。東京を拠点に、政策立案に役立つ情報を提供し、国連システムの優先課題に対処するよう、エビデンスに基づいた知識と解決策を生み出すことで、国際社会に貢献しています。

本研究所は、政策志向型の研究と能力育成を通じ、「持続可能な開発のためのガバナンス」、「生物多様性と社会」、「水と資源管理」、「イノベーションと教育」という4つのテーマにおいて研究・教育を推進しています。学問と政策立案の両面から、これらの分野の専門知識の横断的な統合を通じてサステナビリティに関する知識を結集し、2030年までの持続可能な開発目標（SDGs）達成のための世界的な取り組みに貢献し新たな価値を創造します。また UNU-IAS は、革新的な研究手法と多様なアプローチを駆使し、従来の考え方に挑むことで、地球規模で懸念される課題に対して独創的な解決策を生み出そうとしています。

さらに、石川県金沢市にある、いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットを含め、現地コミュニティを中心とした研究を通じて、多様なステークホルダーとのパートナーシップを構築することによって、SDGsのローカリゼーションを促進し、同時に様々な世界的な重要課題を地域化するためのモデルを開発しています。UNU-IASの大学院教育は、持続可能な社会に向けて、世界的な取り組みの最前線に立つ未来の政策立案者や研究者を育成し、様々な分野における社会変容に貢献することを目指しています。

Webサイト	年次報告書			
		2025年英語版		2024年日本語版
				

国連大学協力会の活動内容

国連大学協力会では、日本社会と国連大学との架け橋となることを目指し、国連大学が実施する教育・研究プログラムや将来世界的なリーダーとなる人材を育成する事業を支援するなど、皆様からお寄せいただいたご支援をもとに様々な事業を展開しています。

具体的には、「助成事業」、「キャンペーン・広報事業」、「国際相互理解の促進等に関する事業」及び「講演会・セミナー・シンポジウム事業」の4つの事業を行っています。

国連大学への助成事業

国連大学協力会は、国連大学の教育・研究プログラムや将来世界的なリーダーとなる人材を育成する事業を支援しています。



■ UNU-IAS で学ぶ外国人学生への奨学金

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）大学院プログラムで学ぶ学生の多くは開発途上国の出身です。東京での生活費を心配せず、学業に専念できるよう主に学生の生活費を支援する奨学金事業を行っています。この奨学金は、「賛助会員」としてご支援いただいている皆様に支えられています。2025年は、10名の学生を支援しました。在学中の生活費を入学から修了まで継続的に支援してくださる特別賛助会員の皆様には、奨学生が来日時のご挨拶と修了時のご報告・お礼のために表敬訪問を行い、会員の皆様とのつながりを大切にしています。



また、2025年は、3名の学生に対し授業料1年分に相当する奨学金を助成しました。この奨学金は、公益財団法人森村豊明会のご支援により実現しました。



■ 未来のグローバルリーダーを支える

国連大学グローバル・セミナーは、UNU-IAS が主催する短期集中セミナーで、日本をはじめ世界各国から学部生、大学院生や若手社会人が参加する大変人気の高いプログラムです。地球規模課題に対する理解を深め、地域と世界のつながりの中で持続可能な未来について考えることを目的としています。2025年は、8月に石川県金沢市及び白山市で開催されました。国連大学協力会は、このプログラムを長きにわたり支援しています。



以上の他にも、次のような助成を行っています。

- ◇ 国連大学本部における教育・研究のための施設整備費
- ◇ 国連大学ライブラリーの蔵書購入費

キャンペーン・広報事業

国連大学協力会では、国連大学協力会の活動内容や国連大学の取組を日本の皆様に広く知っていただくため、様々な広報事業を行っています。

■ 広報資料の配布

国連大学協力会主催のイベントや国連大学の活動内容・最新トピックスを紹介する『JFUNUニュースレター』や各種リーフレット等を、賛助会員や寄付者の皆様をはじめ、関係機関、講演会等の来場者、資料請求者に配布しています。

2025年発行の『JFUNUニュースレター』

51号（4月発行） Introductory Meeting－はじめまして－
Our Home Country－アフリカから来ました－

52号（7月発行） UNU School Visit 2024
JFUNU Study Tour 2024－Kamakura－

53号（12月発行） 国連大学サステナビリティ高等研究所学位授与式
UNU-IAS博士課程学生豊田通商株式会社を表敬訪問
JFUNU Peace Study Tour 2025－Hiroshima－



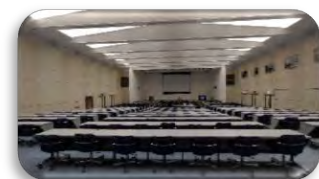
■ インターネットによる広報活動

国連大学及び国連大学協力会が実施するイベントや各種情報を、ウェブサイトやSNS、メールマガジンによって配信しています。

■ UNU School Visit（国連大学本部ビル見学ツアー）

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）への関心が高い若年層の要望に応え、UNU School Visit（国連大学本部ビル見学ツアー）を実施しています。2025年は、国連大学及び国際問題への理解と関心を高められるよう、国連大学と協力し組み立てたプログラムに基づき、小学生から社会人まで幅広い年代を対象に18件実施しました。

PROGRAMME
What's UNU？ 国連にどうして大学があるの？何をしているところなの？ 様々な疑問が一挙に解決！
Visiting UNU Conference Halls 2つの国際会議場を巡ります。 国連の会議に参加した気分を味わおう！
What's JFUNU？ 国連大学と国連大学協力会の役割の違いを説明します
Group Photo ピラミッド型をした国連大学ビルを背景にして記念撮影



国際相互理解の促進等に関する事業

地球規模課題の解決には、国や地域を超えた相互理解の促進が不可欠です。国連大学協力会では豊かな学習・研究活動に役立ててもらいたいという思いから、世界各国から来日する国連大学の学生を対象に、日本文化体験の機会を提供しています。

また、国連大学協力会は、UNU-IAS大学院プログラムの修了生をはじめ、国連大学で学んだ修了生たちのネットワーク形成と情報交換の場として「UNU Alumni Association」事務局を運営しています。

■ 日本文化体験事業

世界各国から日本にやってくる UNU-IAS 大学院プログラムの学生に日本文化や日本の社会について理解を深めてもらうことを目的として、2025 年は以下のようなイベントを開催しました。

6月の歌舞伎鑑賞会は、公益財団法人森村豊明会からの助成金を活用しました。

- 6月 歌舞伎鑑賞会 Discover Kabuki
 解説 歌舞伎のみかた/土屋主税
 12月 文楽鑑賞会 Discover BUNRAKU
 万才/解説 文楽の魅力/国性爺合戦



■ 平和学習プログラム

原爆の惨禍に対する理解を深め、平和を考える研修プログラムを提供しています。2025 年は広島大学学生との交流会や世界遺産「厳島神社」見学も含めて実施しました。この平和学習プログラムについては、公益財団法人森村豊明会からの助成金を活用しました。

- Day1 (2025/7/17) 広島大学との交流会
 Day2 (2025/7/18) 被爆体験講話/平和記念資料館/マツダミュージアム/平和記念公園
 Day3 (2025/7/19) 厳島神社

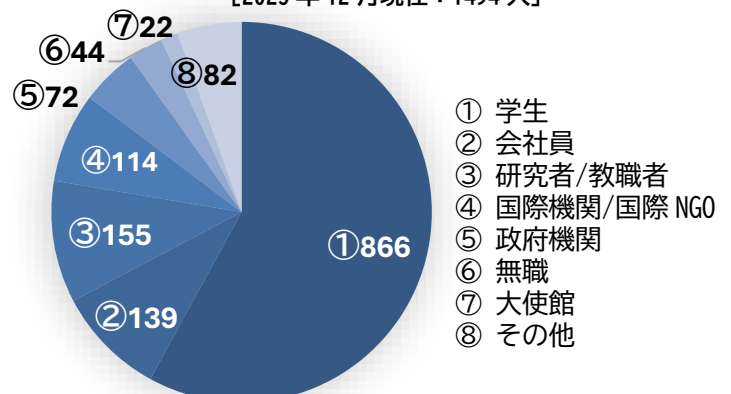


■ UNU Alumni Associationの運営

国連大学が提供する多様なプログラムの修了生たちは、国連機関を含む国際機関、国際 NGO、大学、各種研究機関など、世界各地で地球規模課題解決のために活躍しています。国連大学協力会は修了生ネットワーク「UNU Alumni Association」の事務局を担っています。

UNU Alumni Association 登録者の現所属

[2025年12月現在：1494人]



講演会・セミナー・シンポジウム事業

地球規模課題に関する研究成果を普及させることを目的とした一般公開のシンポジウムや国連大学の研究者や人材育成コース修了生をスピーカーに招いたセミナーを実施しています。2025年2月にはUNU-IASとの連携のもと、茨城県と共催で「茨城県高校生国連グローバルセミナー」を、3月にはUNU-IASとの共催による公開シンポジウム「能登復興国際支援シンポジウム『災害に強い地域の復興を目指してー能登・東北・世界から学ぶ自然を活かした防災・減災』」を対面とオンライン（zoom配信）のハイブリッド形式で実施しました。



災害復興支援「令和6年能登半島地震緊急支援募金」

2024年1月1日の「令和6年能登半島地震」で被害に遭われた地域では、石川県金沢市にある国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）と連携して活動している団体が多く、2025年はその復興支援のため「令和6年能登半島地震緊急支援募金」を前年度に引き続き実施しました。



2025年度収支概要（単位：円）

収入額	43,516,417	
	うち 寄付金額計	24,868,601
賛助会員※	法人 21件	20,600,000
	個人 30件	3,150,000
その他	古本募金（チャリボン）、古物買取（キモチと。）	67,465
	令和6年能登半島地震緊急支援募金	1,051,136
支出額	46,246,921	
	うち UNUへの助成金額計	21,010,000
	UNU-IAS 大学院プログラムに対する奨学金助成（生活費枠）	11,760,000
	UNU-IAS 大学院プログラムに対する奨学金助成（授業料枠）	3,600,000
	国連大学グローバル・セミナー	600,000
	国連大学本部における教育・研究のための施設整備費	5,000,000
	国連大学ライブラリーの蔵書購入費	50,000
正味財産合計	636,007,921	

※賛助会員数

会員区分	会員数	内訳	
		法人	個人
特別賛助会員 200万円以上（個人173万円以上）	6	5	1
賛助会員 A 50万円以上（個人30万円以上）	16	15	1
賛助会員 B 10万円以上	3	1	2
賛助会員 C 1万円以上（学生5,000円以上）	26	0	26
合計	51	21	30

MESSAGES



国連大学を代表して、日本政府と日本国民の皆さまのこれまでのご厚情と暖かな友情に対し、厚く御礼申し上げます。私たちは、東京をホームと呼べることを光栄に思います。

世界の平和と繁栄に対しますます困難な問題が立ちはだかる中、緊急性の高い地球規模課題の対応できるよう、国連大学は必要な知識を提供していく所存です。民間セクターや個人の皆さまから頂く財政援助は、国連大学が研究や大学院教育を推進することを可能にし、共に現代の重大課題を乗り越えていくために、大変重要な役割を果たしています。

公益財団法人国連大学協力は、国連大学の活動に関する認識を日本で広め、私たちの研究と大学院教育のために寄付金を集めるという、重大な責務を負っています。本学は、日本の企業や個人の皆さまからの財政援助に、深く感謝しております。国連大学協会を通じて国連大学の活動を支援していただけますよう、お願い申し上げます。

国連大学学長・国連事務次長
チリツイ・マルワラ



あまり知られていないことですが、国連大学は国連の機関でありながら、国連の通常予算からの予算配分はまったく受けていません。各国政府や世界中の個人、団体、企業などの民間からの任意の寄付を基に運営されています。国連大学が、現実世界の貧困と紛争をなくし、地球規模の環境と開発の問題を解決するためには、強力な支援を必要としています。

国連大学協会（JFNU）は日本の民間からの国連大学に対する支援の窓口として1985年に設立された財団で、東京・渋谷の国連大学本部施設の中に事務所を設け、国連大学への協力を中心とした各種の活動を実施してきました。本法人への寄付は税法に基づく免税措置が講じられます。本法人ではこうした寄付金を基にしてさまざまな国連大学の事業を助成しています。

これまでに、アジア沿岸水域における汚染物質の検査・分析、国連大学大学院生への奨学助成、国連大学グローバル・セミナー各地域セッション、国際講座など、数多くの意義ある国連大学プロジェクトを支援してきました。その他にも様々な広報活動やシンポジウム・講演会等を通して国連大学を支援しています。今後とも国連大学への皆様のご支援をお待ちしております。

公益財団法人 国連大学協会
理事長 小宮山 宏

国連大学協会をご支援ください 国連大学の活動を支援するために

国連大学協会の事業活動は、皆様からの温かいご寄付によって支えられています。今後ともさらに活動の充実と発展を図っていくためにご理解とご賛同を賜り、ご支援をお寄せいただきますよう心よりお願い申し上げます。

本法人への寄付には税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

寄付金の使途：国連大学協会の活動全般

- ☆国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）で学ぶ学生への奨学金支援
- ☆UNU-IAS で学ぶ学生への教育活動支援 ☆国連大学グローバル・セミナー開催支援 ☆国連大学本部の事業活動支援
- ☆国連大学ライブラリーの蔵書購入支援 ☆UNU School Visit 開催（国連大学本部ビル見学ツアー）
- ☆日本文化体験プログラム開催 ☆国連大学 50 周年基金への支援 ☆上記に係る諸経費

●賛助会員

一定額以上のご寄付をお寄せいただいた方を、賛助会員としてお迎えしております。

会員区分	年会費（一口）	当面個人からの寄付については以下の通り
特別賛助会員	200万円以上	173万円以上の寄付で特別賛助会員とする。
賛助会員A	50万円以上	30万円以上の寄付で賛助会員Aと同等とする。
賛助会員B	10万円以上	
賛助会員C	1万円以上	学生に限り、5,000円以上の寄付で賛助会員Cと同等とする。

【会員特典】特別賛助会員は奨学金の名称に寄付者の指定する名称を付与することが可能。その他会員区分に応じて、国連大学のイベントへの招待、国連大学図書館の図書貸出などの特典あり。

その他の支援方法

●古本募金（チャリボン）

読み終わった本はありますか？ご寄付いただいた本の買取査定相当額が国連大学の活動に役立てられます。



●つながる募金

ソフトバンクの携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができます。



●古物買取（キモチと。）

リユースによる新しい支援のかたち、ブックオフの宅配買取寄付サービス「キモチと。」

ご家庭で使わなくなったものをお送りください。リユースを通して、国連大学を支援できます。



●遺贈

遺言によるご寄付（遺贈）、相続財産（遺産）からのご寄付、香典からのご寄付により、その志を未来に繋ぎます。



公益財団法人 国連大学協会
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70
TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

国連大学協会

検索

URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail jf@unu.edu

